

第36回 鹿児島県PTA連合会

「小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校PTA広報紙コンクール」審査評

1 総合所見

- (1) 3年前から、コロナ禍の影響で、学校行事の中止・縮小、校内への立ち入りや学校行事等の入場制限がなされたこともあり、広報紙の作成が困難を極め、広報紙コンクールへの応募が減少していた。しかしながら、本年度は減少に歯止めがかかり、小学校は横ばい、中・義務教育学校、高等学校、特別支援学校は、応募校が増加した。
- (2) 全体的に、テーマ性のある紙面作りをして、PTA活動活性化のための広報紙づくりへの意欲と努力が感じられた。見出しや色使い、レイアウトなど工夫されて、読みやすい広報紙が多くなった。
- (3) ここ2年ほど、年間1号から2号発行という学校が多かったが、本年度は、コロナ禍以前のように、1年間に、2号以上発行した学校がほとんどであった。
- (4) 小学校では、A4版の新たな形式の広報紙が増え、ずっと保存しておきたいと思うものが多くあった。また、保護者が知りたい教育情報をテーマにした誌面づくりも目を引いた。中には、学校の教育活動を支えてくださっている交通指導員の方や給食調理員の方などにスポットを当てて、感謝の気持ちを伝えている記事などがみられ、微笑ましく感じられた。web版の学校が2校あった。タイムリーな記事を扱い、画像をふんだんに掲載し、その特性を活かしていた。
- (5) 中・義務教育学校は、コロナ禍で多くの制限がある中、昨年に比べて出品数が増加した。どの学校も、誌面づくりに工夫を凝らし、写真も効果的に活用していた。また、時季を得たアンケートを実施し、読み手の興味・関心を引く話題を取り上げて、掲載している学校が目についた。
- (6) 高等学校と特別支援学校は、応募校も増え、質の高いものが多く、選考に苦慮した。1学期、3学期は入学、卒業など、タイムリーな記事を扱っていた。また、保護者の知りたいことをリサーチし、それを記事にしている広報紙も多く見られた。最優秀作品は、高等学校と特別支援学校は共に、保護者が知りたいことを特集し、保護者にとって役立つものとなっていた。
- (7) 全校種に渡って、写真撮影の技術も向上し、生き生きとした児童・生徒の表情、素敵なアングルのものが多いことが目を引いた。
- (8) 県PTA広報紙担当者研修会・PTA広報紙コンクールのみならず、県内各地で広報紙研修会を開催することにより、紙面の充実と質の向上が図られているのは喜ばしいことである。

2 今後の課題（留意してほしいこと）

- (1) 年間テーマ・年間編集計画等を策定し、計画的に取材、編集を行ってほしい。
- (2) 基本的なことではあるが、文字の大きさや書体、濃淡など、気をつけてほしい。
- (3) 広報紙で取り上げたアンケート結果を、PTA活動の改善に役立てていただきたい。
- (4) PTA新聞というより、学校行事を並べた学校だより風になっているものがあつた。
- (5) 今後も、他校の優れた広報紙を参考にしたり、広報紙担当者研修会に参加したりして、PTA広報紙の内容の向上とPTA活動の充実を図っていただきたい。